

優秀賞 北海道 佐藤 菜摘希 様 （高校生 女性）

私の家は、母、姉、私、弟の四人家族です。父は、私が小学校四年生の時に、癌で亡くなりました。母はその頃から女手一つで私たち姉弟を何の文句もなく何不自由なく育ててくれています。

私は最近、「一家の大黒柱である父を亡くし、生活も苦しいはずなのに、どうして何不自由ない生活を送れているんだろう」と思うことがありました。それを思うきっかけとなったのは、学校の授業の課題として出された、日本年金機構が主催する「わたしと年金」エッセイの存在を知ったからです。学校の先生に年金のことを詳しく聞いて、私は一般的に一番知られている六十五歳から支給される老齢年金だけではなく、年金加入者の死亡による遺族の所得の喪失を補償する年金の遺族年金、障害の程度が年金法に定められた一定の障害等級に該当すると支給される障害年金があることを知りました。

母に、

「私の家って遺族年金を貰っているの？」

と聞くと、

「貰っているよ。そのおかげで今も今までも普通に生活出来ていてとても助かっているのよ。」

と言われました。私は今まで自分の家庭が年金を貰っているなんて知らなかったもので、自分の知らないところで沢山年金に助けられていたんだなと実感し、この年金の制度がある日本に住んでいて良かったと思いました。

私たち姉弟や母が何不自由なく普通の生活を送っていたのは、母が汗水流して働いてくれたお金と、国から支給される遺族年金のおかげだったことを知り、今までそのことを知らなかったのを悔しいと思ったし、もっと年金のことを詳しく知りたいと思うようになりました。

それから私は、このエッセイを通じて色んなホームページを見たり、年金のことについて検索したりしました。するとこう書いてあるページが出てきました。

「年金問題」 少子高齢化の進展により高齢者（年金受給者）の比率の急増と、積み立てられた年金原資の運用利回りの低下で公的年金の運営状況が悪化している問題。

私はこのページをみて、私が高齢者になって老齢年金を受給できる年になった時、今よりも支給される金額が低くなるかもしれないこと、少子高齢化が進み、二人で一人の高齢者を扶養することになるということを知りました。人生百年時代と言われている世の中で、今、種類は違えど、年金に生活を助けられている私が、未来のある若者たちが、この問題から目をそらしてはいけないと思います。私はこの「わたしと年金」エッセイを通じ、年金の良さを広めていき、老後をむかえる高齢者の方や障害を持っている方、家族を亡くされた方に不自由な生活を送らせるということを絶対に阻止したいと思います。

私は日本国民全員が年金制度のある日本に生まれて良かったと思えるような人生を歩んでもらいたいです。